
蠟燭街

東風方 胡蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蠟燭街

【Nコード】

N4828Q

【作者名】

東風方 胡蝶

【あらすじ】

北方某地にて、悵恨に湛ふ。
未完結。

羸瘦とし、眼光の炯炯とした老人はただそれだけ三度ばかりぼそりと言った。余りの突然であり、また、突飛なことであつたので、私は傾聴すらせず、哂笑で以って一蹴した。

白夜のこの街では今、祭の最中だ。今日は初夜ということもあり、皆酒を飲んだり踊ったりと、祭を謳歌している様であつた。私も一献酒を頂戴し、一氣に仰いでみせる。辺りでどつと歓声が上がリ、この街に来たばかりである私を漸く歓迎してくれたらしく、蹇産した気分から解放された気がした。やはりあの老人はただの氣違いか、仄聞しただけであるが、この祭は一週間に渡り執り行われるらしく、最終日にもなると困憊してしまい、翌日から二日程、店の営業は殆ど無いとか。この街に来て早々、一週間後に迫る食料危機を危惧せねばなるまい。最終日には暴飲暴食と迄は行かずとも、二日程度凌げる量を食べておくことにしよう。如何せん、この街は極寒であり、動もすると凍死し兼ねないので。

徐に馥気が漂い始めた。肉でも焼いているのか、腹を空かせた者は群集し、そこで何か良く解らぬ事を喚いている。儀式か何かか。つい先刻の老人の言葉がふと脳裏を過ぎつたが、束の間のうちに喧騒に消え去つた。私は未だ腹が減っていない為、酒をもう暫く飲み乍ら舞踏の観覧に徹することにする。幾許か経つたろう。私はどうも眠つて終つていた様である。今は黎明時と言つたところか、辺りは全然静寂に包まれている。

藐然の鳩の嘯く。幽韻ではあつたが、それが妙に嫌に響き、吃驚して了つた我が怯懦に、嫌氣を感じずには居られなかった。

俄に怒号に近いそれが随所から発せられる。祭が再開したのであるうか、辺りのものが蠢動し始める。聞くと、鳩の声が暁の合図だとか。流石、寝ずに、と言つたことでは無いのか、と、何故か至極

安堵を覚えた。

二日目ともなるとやはり、前日飲み過ぎた者も多数おる為か、前日程の活気は無く思える。かと思えば頓に活気が戻った。花火をあげて始めた様だ。日本人である私は花火は至当夏の夜に行われるものであると思っていたが、どうやらこの街ではそうでは無いらしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4828q/>

蠟燭街

2011年2月1日15時16分発行